

トキ野生復帰にむけて

60



トキと翔ける島づくりフォーラム開催

9月29日、第2回トキ放鳥を記念し、「トキと翔ける島づくりフォーラム」を、新穂地区にあるトキのむら元気館で開催しました。市民や観光客350人が集まり、ホールは放鳥の熱気にあふれました。

歌手の加藤登紀子さんをお招きし、「佐渡トキ環境親善大使」に就任していただき、佐渡の環境や産業・観光などをPRしていただくとともに、人とトキが共生できる社会の実現への架け橋をお願いしました。

加藤登紀子さんの講演会では「トキと生きるしあわせについて」と題して講



加藤登紀子さん「佐渡トキ環境親善大使」に就任



演をいただき、「トキを見守る」ことよって、佐渡の人は心豊かになり、たくさんの方が幸せな気持ちになったのではないかとのお話が、観衆の共感を得ていました。

パネルディスカッションでは、7名の皆さまから「トキと共に生きる島づくり」を議題として討論が繰り広げられました。パネリストのそれぞれのお立場から、経済、生産者、環境問題、島民の意識等の様々な面で意見交換を行いました。会場は各パネラーの発表に、今後のトキとの関わりについて関心をもって聞き入っていました。



世界遺産登録に向けて

佐渡市歴史的建造物
造物悉皆調査⑧

畑野地区

○玉林寺（佐渡市畑野）

玉林寺は文明17年（1485）開基と伝わる真言宗寺院で、最初は隣村の下畑集落に建てられました。洪水のため正徳4年（1714）に現在の場所に移転しました。

今回の調査で、本堂は1600年代後半～1700年代前半の建築で、移転当時のままであることが判明しました。鐘楼は明治7年（1874）、佐和田地区の真光寺から移築されたもので、軒から下には1600年代後期の建築様式がみられます。このほか境内には、山門・宝蔵庫・味噌蔵など、多様な装飾を持つ江戸時代後期の建造物も現存します。



▲玉林寺鐘楼

○妙満寺（佐渡市目黒町）

妙満寺は日蓮宗寺院で、妙宣寺（真野地区）二世となった日満によって、延文2

年（1357）に開基されたと伝えられています。

本堂は近年瓦葺きの屋根に改築されましたが、堂内は豪華な彫刻や装飾が施されており、1700年代中期の建築様式をよく残しています。また、広大な境内には、1800年代初期に建てられた山門・鐘楼も現存します。

なお、寺の近くには「塚の腰」という場所があり、かつて日蓮の配所であった塚原の地とも推定されています。



▲妙満寺本堂

◆市役所世界遺産推進課 ☎63-5136

世界遺産出張説明いたします

市民の皆さんが主催する勉強会や現地見学会などに、世界遺産推進課職員が出向き、お話・解説をします。お気軽にお問い合わせください。